

シンポジウム III : つながりを創る特色ある臨床検査技師教育

2. 夜間定時制における臨床検査技師教育

小澤 優*

[Key Words] 京都保健衛生専門学校、夜間部教育、iPad

はじめに

臨床検査技師の夜間部教育を行う養成所は現時点では全国に2校のみとなっている。高校生はもちろんのこと、我々臨床検査技師養成所の多くの先生方も夜間部教育が残っていることすらご存じないのではないかと。このような認知度の臨床検査技師夜間部教育について、ご理解いただくために解説をしたい。

I. 本校を取り巻く環境

本校は昭和39年、その前身となる堀川高等看護学院の開校にはじまり、昭和48年に夜間部の臨床検査技師養成学科(第二臨床検査学科; 定員40名4年制)を設立した。その後、昭和52年に昼間部の臨床検査技師養成学科(第一臨床検査学科; 定員40名3年制)を設立し二部制とした。また平成10年には臨床工学技士専攻科(現在定員24名)を開講し看護師、臨床検査技師、臨床工学技士を養成する医療系複合専門学校として現在に至っている。臨床検査技師の養成は昭和33年の衛生検査技師法の制定以後、現場で仕事をもちながら夜間部で学び資格を取得された方は多いと思う。その当時は臨床検査に限らず、教育施設の不足などにより一般の大学などでも夜間部を設立す

る学校は多くあった。しかし、少子化を迎えた現代では教育全般において夜間部の需要は少なくなっており、現在、臨床検査技師の夜間部教育を行う養成施設は、本校と東京医学技術専門学校の2校のみである。

II. 夜間部教育の現状

本校の夜間部の授業時間は、平日は17時30分から20時40分までである。土曜日は15時から18時10分までの90分2コマ授業で、臨地実習は昼間に実施している。カリキュラムは基礎分野14科目18単位、専門基礎分野20科目22単位、専門分野は臨地実習7単位を含む47科目64単位、合計81科目104単位で構成されている。この単位数は臨床検査技師養成施設指導要領に規定されている必修科目95単位よりはるかに多い単位数である。

各科目の到達目標をいくつか紹介すると、心電図検査については、検査前に患者の一般的状態を把握したうえで検査目的や検査実施上の注意点を説明し、正確に記録できること、また不整脈や急性心筋梗塞など代表的な循環器疾患の心電図波形を理解すること、腹部超音波検査、心臓超音波検査では各臓器の基本画像が描出できること、としている。輸血検査学ではABO、Rh血液型検査と

*京都保健衛生専門学校 ozawa@kyohosen.ac.jp

クロスマッチを正確に操作し判定できること、尿検査学では、採尿方法を的確に指示できることと、尿沈渣標本を標準通りに作製し基本的成分の鑑別ができること、としている。以上のように基本となる臨床検査項目を正確に実施できることと、患者へ必要な説明ができること、そして複数の検査項目から病態を推論できることを目的にカリキュラム全体を構成している。

夜間部学生の特徴を過去10年間の学生データから昼間部学生と比較してみると、まず入学時年齢では、18～19歳は昼間部74%、夜間部26%、20～24歳は昼間部18%、夜間部29%、25～29歳は昼間部7%、夜間部27%、30歳以上は昼間部1%、夜間部18%である。次に本校入学前の学歴については、高校卒業者の占める割合は昼間部82%、夜間部54%、大学・短大卒業者の占める割合は昼間部18%、夜間部36%、専門学校卒業者の占める割合は昼間部1%未満、夜間部10%である。夜間部に高校新卒で入学するものは、入学者の1/4程度と少なく、大学・短期大学・専門学校を卒業した後に、医療系専門職を目指して入学するものが多い。これは学歴や社会人経験を積んだ上で、はっきりとした目標をもって臨床検査技師を目指すものが多いことを意味していると思われる。このことは仕事に時間をとられ勉強時間が少なく、登校しても教員から指導を受けられる時間が少ないにも関わらず、卒業率や国家試験合格率が昼間部学生と比較して同程度で推移していることから推察できる。年齢がやや上の学生は、学習に時間が掛かることもあるが、粘り強く自身の目標に向かって勉学に取り組んでいる。クラスの若い学生たちは、この人生の良き先輩であり、やや年配の同級生から勉強方法や社会人としての考え方など多くのことを学んでいるようである。

III. 学生個々がiPadを所有しての

授業取り組み

本校臨床検査学科では、昼間部も夜間部も新しい教育手法として学生全員に一人1台のiPadを持たせて授業と自学習に活用させている。まず授業資料は、ほぼ全てをiPadにデータを転送して

授業中に見させている。iPad画面上で手書きやキーボード入力も可能であり印刷資料を配布することと変わりなく学生たちは使っている。iPad利用の教員側のメリットとしては、授業前の印刷作業から解放されることである。特に非常勤講師から授業直前に持ち込まれた資料もスキャナーでPDF変換し、学生iPad専用サーバーに保管するだけで後は学生が教室でダウンロードし授業を受けられる。また過去の資料や他教員が配布した資料もすべてiPadに保管されているため、授業の振り返りや資料互換にもフル活用できる。また画像や動画データの利用にも有効で、画像については画面上での拡大機能を使えば血液細胞などでもかなりの解像度で観察することが可能であり、顕微鏡を使わず形態系の授業をある程度カバーできる。さらには学生のiPadも常時インターネット接続しているため、授業で出てくる新しい単語などの検索も簡単にできる。iPad利用について書き出すと中々終わらないのでこのあたりにおいておくが、特に学習時間の限られた夜間部学生にとってiPadは、いつでも、どこでも学習できる素晴らしい学習アイテムである。

IV. ま と め

政府は少子化と労働力減少に歯止めを掛けるためか、「学び直し」をキーワードに出産・育児のために退職した人に、新たな学習機会と資格取得により社会復帰するシステムを検討している。このことは出産・育児の終わった人だけが対象ではなく、何らかの事情により退職したすべての人を対象に「学び直し」を推奨し優秀な労働力として社会復帰させることを意図していると思われる。高校新卒者からは敬遠されがちな夜間部教育ではあるが、「学び直し」を目指す人には大きな魅力があり、高度な医学教育を受けられる現実的なコースである。一般的な昼間部の臨床検査技師養成施設では経済的理由も含めて受け入れにくい「学び直し」層を本校では積極的に受け入れ、教育することにより、臨床検査業界、医療業界に繋がりを持たせていきたいと考える。